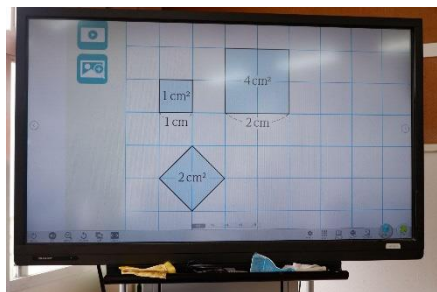
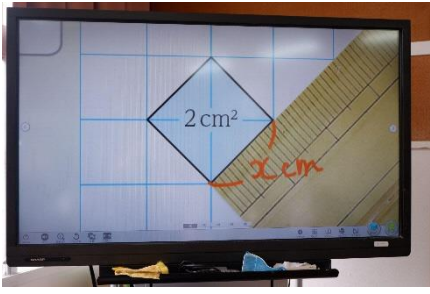
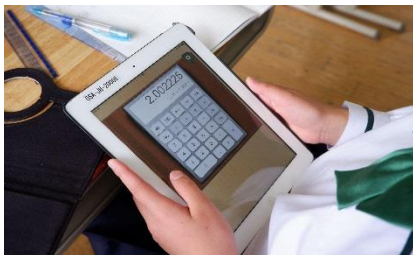


1人1台端末の活用による実践事例

(小・中学校)

学校名	新見市立大佐中学校	実践者名	桑村 和男
教科等	数学	学年	第3学年
		授業活用段階 (岡山県版)	Stage 1
育成したい 資質・能力	・記号√のよさについて考えようとする態度を養う。 ・面積が2cm ² の正方形の1辺の長さの表し方を考えることを通して、根号の必要性和意味を理解できるようにする。		
単元・内容等	平方根・2乗するとaになる正の数		
児童生徒の実態 (端末活用頻度等)	3年生の数学の授業では毎時間大型提示装置を使用しているが、端末を使用させることはほとんどない。		
活用の概要（使用アプリ名を含む） ※写真も掲載する			
(1) いろいろな面積の正方形を作図する。 (2) 面積が2平方センチメートルの正方形の1辺の長さを定規で測る。 (3) 端末（電卓アプリ）を用いて1辺の長さの近似値を求めていく。 (4) √記号について知る。 (5) 電卓を用いれば2乗するとaになる正の数を求めることができることを理解する。 使用アプリ名：電卓+（でんたくプラス）		 	
			
実践者の手ごたえ		児童生徒の振り返りや反応等	
手計算では、かなり手間がかかることを実感させた上で、電卓を使用したので、√ボタンの便利さを知り電卓のよさを再認識させることができた。普段使用している端末内のアプリを使用することで端末のよさを実感させることができた。		(生徒の感想) 「√について、良く分かった。」 「手計算するのは大変だったが、電卓アプリを活用することで、簡単にできた。」	